



# NST



No.31

編集/安藤 芙美 衣袋 静子  
 太田 正孝 菊池 聡  
 近藤 健男 神 裕子  
 瀬田 拓 布田 美貴子  
 宮田 剛 山内 泰子  
 発行/東北大学病院NST広報係  
 TEL.7120 FAX.7147

## 医薬品・食品相互作用情報の食事オーダー連携システムについて

医薬品の中には食品との相互作用により作用が減弱又は増強するものがあります。従来は投与医薬品に相互作用を有する食品の中止指示にて対応していましたが、多種多様にわたる医薬品に対して知識のみで全て中止指示を行うことは困難でした。そこで、食品と相互作用のある医薬品が処方された場合に、対象食品を禁止食品として栄養管理システムに反映させるシステムが平成22年4月より稼働しているのご紹介します。



文責: 菊池 聡

これまでは病態に応じた食種により禁止食品が定められていましたが(例えば心臓食=納豆禁:しかし対象の患者様全てにワーファリン錠が処方されているわけではない!）、このシステムにより患者様個々の使用医薬品に合わせた食品禁止指示が可能となりました。

- 中止入力漏れ補助ツールであり、中止の際は従来通り食事オーダーより中止入力を行なってください。
- 相互作用対象食品は影響のない食品に変更されます。
- 入院後に当院で処方された(他科外来処方も含む)薬品のみがチェックの対象となります。
- 現在のところビタミンK含有食品、グレープフルーツ、乳製品のみがチェック対象となります。



●食品と相互作用のある医薬品一例 (詳しくは星陵医薬品情報No85を御参照ください)

薬品名	分類	食品	薬品に及ぼす影響
アダラートCR錠 コニール錠	Ca拮抗薬	グレープフルーツ	作用増強(血圧低下)
リピトール錠	HMG-CoA還元酵素阻害薬	グレープフルーツ	作用増強(副作用頻度上昇)
イレッサ錠	抗悪性腫瘍薬	グレープフルーツ	
プログラフカプセル・注	免疫抑制剤	グレープフルーツ	作用増強(過度の血中濃度上昇)
ワーファリン錠	抗凝固薬	納豆	作用減弱
シプロキササン錠	広範囲抗菌薬	牛乳・乳製品	作用減弱

## 中心静脈栄養法の略語について

■TPN(Total Parenteral Nutrition) ⇒ Total(全部の)Par(~を使用しない)enteral(経腸)Nutrition(栄養補給)  
 ちなみに経腸栄養療法はEN(Enteral Nutrition)

■IVH(intravenous hyperalimentation)は本邦のみで用いられている用語で、日本外科代謝栄養学会では完全静脈栄養法として「TPN」が用いられています。 intravenous(静脈内の) hyperalimentation(高栄養)

■中心静脈栄養法、完全静脈栄養法、高カロリー輸液という用語の使い分けについては、一定の見解は得られていません。[中心静脈カテーテル](#)を介して栄養輸液を投与することを意味します。



## NST研修会予定

3月21日(水)「薬と栄養」 講師:久道 周彦先生 (薬剤部)